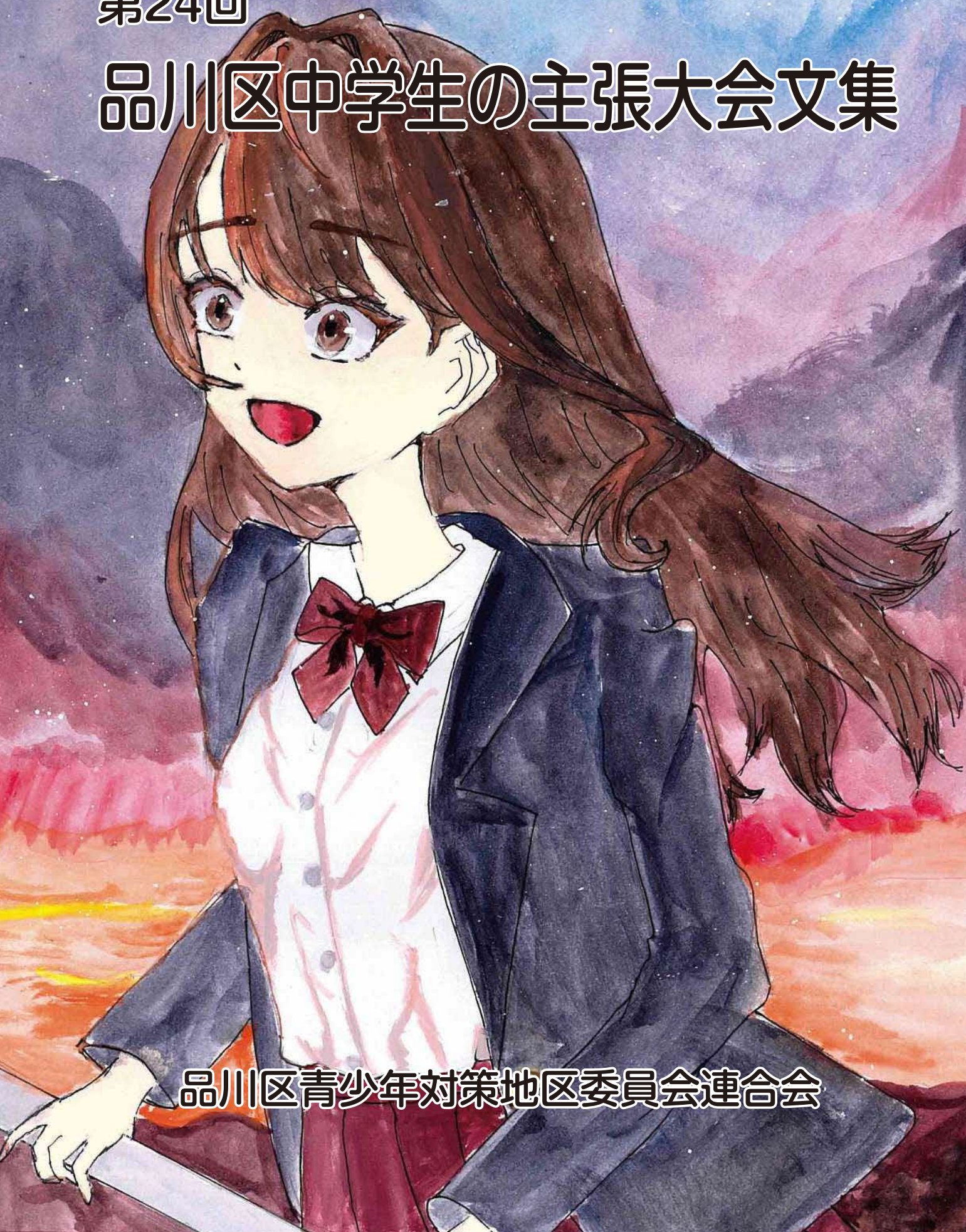


第24回

品川区中学生の主張大会文集



品川区青少年対策地区委員会連合会

第24回品川区中学生の主張大会

主催 品川区青少年対策地区委員会連合会 後援 品川区



(発表者・司会者・地区委員会連合会役員・審査員)

日時：令和6年 12 月 14 日（土） 13 時

場所：スクエア荏原 ひらつかホール

主催：品川区青少年対策地区委員会連合会

後援：品川区

協賛：品川区教育委員会

品川区立中学校長会

品川区立義務教育学校長会

品川区立中学校 PTA 連合会

〔	表紙	戸越台中学校	8年	あきや 秋谷	ゆな 柚那	さんの作品	〕
	裏表紙	戸越台中学校	8年	おだしま 小田島	めぶき 芽吹		

はじめに

「品川区中学生の主張大会」は、中学生が日ごろ考えていることを多くの人の前で発表することにより、自立心や社会性を育てること、また、地域で青少年に関わる皆様が中学生への理解を深める機会とすることを目的に、平成十二年から開催しております。今年度も、皆さまのご理解ご協力に支えられ、第二十四回大会を迎えることができました。改めて、学校関係の皆様や各関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

本大会では、多様性や社会問題に関すること、コミュニケーションに関すること、「楽しむ」をテーマにしたものなど、様々な発表がございました。中学生一人ひとりが地域や家庭、学校での日常生活を通して経験したことや感じたことなどを、自分の言葉で精一杯伝えてくれました。中学生の皆さんは、先生やご家族に支えられながら練習を重ねてこられたことと思います。是非この体験を大切にいただき、今後に活かしてほしいと願っております。

地域で活躍されている皆様におかれましても、この文集を中学生の心の一端を知る手段としてご活用いただき、今後の青少年の健全育成のための参考としていただ

ければありがたく存じます。

スマートフォンを所持する子どもたちが増え、インターネットやSNSから様々な情報を入手することや、世界中の人とつながることが簡単にできるようになりました。一方で、多様性が広がる社会の中で子どもたちの抱える悩みは複雑化しています。こうした状況の中、私たち地域の大人が果たすべき役割について、考え行動し続けていかなければならないと感じております。

品川区青少年対策地区委員会では、関係機関の協力を得ながら、区内の各地域において、小・中学生が参加できる事業をはじめ、幅広い年代の方たちと交流できるよう、様々な活動を進めております。今後も青少年が健やかに成長できるよう学校、地域、家庭と更なる連携を深め、活動を推進してまいりますので、ご理解ご協力を宜しくお願いいたします。

最後に、この大会を開催するにあたりご協力いただきました審査員の方々、また、学校関係の方々に御礼を申し上げます。

品川区青少年対策地区委員会連合会会長

市川 信之助

目次

発表のテーマは自由。ただし、社会の一員として地域や学校のなかで、日常生活を通して経験したことや、さまざまな活動を通して感じたこと、意見などをまとめたものとする。

最優秀賞

真の多様性とは

日野学園 九年

坂本 美心華
…………… 1

優秀賞

命より大事な情報って何ですか？

東海中学校 八年

田島 華乃
…………… 3

優秀賞

今、京都に何が起きているのか

荏原第六中学校 九年

三浦 慶太
…………… 5

優秀賞

私の中の変化

荏原第一中学校 九年

伊藤 優里
…………… 7

審査員特別賞

人を幸せにするもの

豊葉の杜学園 九年

櫻井 悠真
…………… 9

奨励賞

勉強

相手に配慮すること

“楽しい”の力

不透明な未来を思案するあなたへ

新しいコミュニケーションスタイル

国際教育の必要性

「できない」から「できる」へ

運命を変える

普通って？

社会の外側

講評

審査員長（元東邦音楽大学特任准教授）

江森利公	稲永	吉田	米澤	飯村	吉澤	増野	佐藤	小林	中村	塚崎
えもりとしひろ	いななが	よしただりこ	よねざわ	いむらた	よしざわ	ましの	さとうるこ	こばやしりょうた	なかむら	つかさき
………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………
31	29	27	25	23	21	19	17	15	13	11

最優秀賞

真の多様性とは

大崎第一地区

日野学園

九年

坂本 美心華



昨今、「多様性」という言葉をよく耳にするようになりました。違いを認め合い、共存していこうという風潮があるのは明らかです。それに伴い、社会全体として多様性を目指していく中で、様々なトラブルが起こっています。性別や国籍、文化や価値観の違いなど、その内訳は多岐にわたります。それもそのはず、自分と異なる思考や、身体的特徴による不便を、想像力のみで完全に理解するのはまさに至難の業です。そこで諍いが起こるのは必然的であると言えるでしょう。しかし、「誰もが自分らしく過ごせる社会」を理想に掲げるならば、この問題に向き合うことが必要です。

ここでは、多様性を目指す中で生じた問題の中でも、「障害」について考えてみようと思います。今年の四月

に施行された改正障害者差別解消法により、これまで事業者の努力義務であった障害者への合理的配慮の提供が義務化されました。つまり、障害者への補助は「思いやり」ではなく、「当たり前」に変わったことが明確になったのです。そんな現代社会の中で、障害者に補助をする際に私達に求められているのは、双方の状況を共有した上で、安全性が確保されるような方法と一緒に見つけていくことであると考えています。

今年の春、車いすユーザーの女性のある投稿が話題になりました。その女性は、過去に数回、職員に映画館の階段を車いすごと運んでもらっていたそうです。しかし、その日は職員から危険性や負担を理由に補助を断られ、悲しみと怒りを感じたと綴っていました。緊急時のことや、企業のバリアフリー対応などの様々な観点から鑑みると、この出来事は女性側にも、企業側にも非があったという結論に行き着くことができます。最終的には、「話し合い」により、決着がついたそうです。

この「話し合い」は、多様性を目指す中で最も重要なことだと思っています。前述したように、自分と異なる立場の人の気持ちを想像するのは限界があります。だからこそ、お互いが意思を声に出し、双方の合点がつくようにいい塩梅を探る努力をしなければなりません。相手のことを知ること、それが多様性の第一歩なのです。

私の家族は車いすバスケットボールを鑑賞することを趣味としており、特に姉はあるチームのマネージャーも務めています。私は以前まで「障害者」とは、人一倍の苦しみを味わって懸命に生きている人のことだと思い込んでいました。しかし今では、そう感じていた自分を恥ずかしく思っています。「障害者」という言葉から連想されるべきは、健常者がつい連鎖的に考えてしまうような同情や可哀想といった感情ではありません。文字通り、身体や知的機能にハンデがあるという事実、ただそれだけなのです。私が車いすバスケットボールに惹かれたのは、障害を持ちながらもプレーをする姿に感銘を受けたからでは一切なく、彼らの試合が純粹に面白いからです。試合を見たり、姉の話を聞いたりしていると、選手が「障害者」であることをすっかり忘れてしまっています。私はパラスポーツを通じて、自分が無意識に「偏見」という名の差別をしていたことを初めて自覚したのです。

現在、私は手話に興味があり、勉強の合間に指文字や単語の表し方を調べています。その時間はとても楽しいです。手話を学ぼうとした動機は、映画やドラマにあり、とても単純なものでした。このプロセスを生み出したのは、私の中に芽生えた障害への認識の変化であるように思います。なぜなら、今の私は「手話」を、聴覚障害者のための会話ツールではなく、一つの言語として捉える

ようになっていくからです。

私はこの経験を経て、違いを超えた先には、過ごしやすさや新たな発見を上回る「純粹な楽しさ」があることに気がつくことができました。真の多様性が達成された社会では、諍いよりも楽しさが勝っているということを強く、訴えかけたいです。



優秀賞

命より大事な情報って何ですか？



品川第二地区

東海中学校

八年

田^た島^{じま}華^{はな}乃^の

皆さんは歩きスマホをしたことがあるでしょうか。令和元年からの五年間で歩きスマホが原因で百五十八人が救急搬送されました。また、二〇二三年の調査によると十代から二十代の六割強が歩きスマホをしているという結果が発表されました。歩きスマホはやらない方が良いと分かっていますが、ついやってしまう人は多いと思います。歩きスマホは皆さんが思っている以上に危険であること、軽い気持ちによって大変な事故を招く可能性があることをご存知でしょうか。

このような事故がありました。三十代女性が歩きスマホをしながら踏切を渡っていたときです。警報音が鳴り遮断機が降りる中、遮断機内で立ち止まってしまったのです。その数十秒後、電車と接触し、その女性は亡くな

りました。この事故に関して警視庁は、その女性が踏切の外に立っていると勘違いした可能性があると言います。一体なぜこのようなことが起こるのでしょうか。それは脳の仕組みが関係していました。脳は様々な情報が入ってくると全て同時に処理できず、関心が強い一つを選んで処理しようとする働きがあります。そのため女性はスマホに夢中で、目や耳から危険を知らせる情報が入ってきてても、その意味を認識できなくなってしまったのです。私はこれを知ったとき、正直そんなことがあり得るのか驚いてしまいました。

また、このような事故もありました。小学生の兄弟が下校時に横断歩道を渡っていたときです。スマホのゲームに夢中になっていたトラック運転手が小学生の弟に突っ込み、跳ね飛ばされ亡くなりました。たかがスマホのゲームによって、大事な命が奪われたご家族の気持ちを考えると、私までやるせない気持ちになりました。そのような事故は絶対に許されてはいけないと思います。車は数秒で何十メートルも進んでしまいます。個人の軽い気持ちの何倍にも及ぶ危険が車のながらスマホにはあるのです。

しかし、ながらスマホが習慣になっている人はすぐにやめることは困難です。そこで、まず私は歩きスマホをする人が少しでも減るような改善案を考えました。それ

は、路面標示の活用です。歩きスマホを禁止する路面シートを歩道に設置し注意を呼びかける方法です。神奈川県の大和市では路面標示を活用したことで、歩きスマホをする人が半分以上に減少した結果があります。さらに私はそこに目のイラストを加えることを提案します。目のイラストについてイギリスの大学の研究チームがある実験をしました。レストランにゴミは利用者自身で捨てるよう求める二種類のポスターを掲示しました。一方は花、もう一方は目が描かれています。結果は目のイラストの方が花に比べ二倍の客が指示に従いました。そのため、路面標示とこちらを見つめる目を掛け合わせることで、歩きスマホをする人が減るのではないかと考えました。

現在、歩きスマホをしてしまっている人は多くいます。しかし、将来それを運転しながらも続けてしまうと、自分が事故に遭うだけでなく、関係のない人の大事な命が奪われてしまう危険性があるのです。これくらい大丈夫、いつも平気だからと思う気持ちもあるでしょう。しかし、その軽い気持ちによって奪われた命は確かにあり、消えることはありません。また私たちが加害者になることもあるのです。そのようなことになる前に、今から自分の習慣を見直してはどうでしょうか。



優秀賞

今、京都に何が起きているのか



荏原第一地区

荏原第六中学校

九年

三浦慶太

古都、京都は、上品さと気高さを兼ね備えた、歴史と文化が息づく魅力的な町だ。また、京都には独特の「おもてなし文化」があり、京都の人の物腰のやわらかさと美しさには本当に感動させられる。自然の美しさや食文化も魅力の一端であり、世界遺産に登録された寺社も数多くある。日本の伝統文化である芸舞妓や着物姿の人々、祭りなど、日本らしい風景や文化を体験できるのも京都に多くの観光客が訪れる理由となっている。

しかし、観光シーズンの京都は、どこを見ても人・人・人だらけで、とても古都の街並みや、有名なお寺をじっくり眺めるどころではない。実際、僕も修学旅行で初めて京都を訪れたが、特に清水寺は外国人観光客でごった返して歩くのもままならない状況だった。京都の風情や

情緒を味わうことを楽しみにしていただけに、それを満足に味わえなかったことは残念に感じた。それだけ人が大勢集まれば、食べ歩きやゴミのポイ捨てなど京都の持つ優雅な雰囲気にとぐわらない行為をする人もいて、本来の美しさが損なわれている。また、公共交通機関の麻痺が起こっており、特に深刻な問題になっているのはバスだ。主要観光地へ向かうバスが増便されているものの、これを上回る観光客の過度な集中により、地域住民の通勤や通学、買い物の移動もままならず、日常生活に支障をきたしている。これらの問題に対し、様々な対策が取られている。例えば、バス一日券を廃止にし、地下鉄への乗り換え券の配布、市民利用と観光利用のすみ分けに向けた観光特急バスの導入、食べ歩きや迷惑行為への多言語による注意喚起看板の設置などだ。また、僕が考えた案としては、混雑に悩む観光施設は外国人料金を設定したり、完全予約制にしたり、入場料を引き上げ、地域住民向けの年間パスを発行するなどの対応をしてみてもどうだろうか。芸舞妓を無断で写真撮影する迷惑行為や、私有地への無断立ち入りなども発生している。これらの問題が解消されなければ観光地としての魅力低下につながりかねない。このままでは、京都が京都でなくなってしまう。人々が暮らす街並みが壊されてしまう。京都は、日本文化の担い手であり、次世代に繋げるためにも、美

しい品格ある京都を守り続けなければならない。しかし、訪日外国人によるオーバーツーリズムの問題は確かに深刻だが、決してデメリットばかりではない。訪日外国人が日本にもたらす経済効果は非常に大きく、様々な業界で経済効果をもたらしている。訪日中に体験した地域の魅力をSNSなどで広めてもらえば、日本の歴史や伝統文化の認知向上にも繋がるだろう。外国人観光客が増えれば、それに対応するため新たな雇用やサービスも生まれるはずだ。観光は、日本の力強い経済を支えるための極めて重要な分野だ。それと同時に観光振興と地域資源の保全を目指すエコツーリズムの普及と定着に取り組みなくてはならない。二〇二五年には大阪万博の開催も予定されており、京都を訪れる観光客も増加するだろう。

僕は学校の勉強の中で、歴史が一番好きだ。修学旅行に行き、教科書で学んだお寺や神社、京都でしか見られない昔の人々の生き方、暮らし方が反映された日本古来の文化を見ることができて、タイムスリップをしたような気分になった。だからこそ、世界に誇るべき、唯一無二の京都の魅力を、僕たちの京都を守り、そして後世に良い形で繋いでいきたい。日本人、訪日外国人どちらにとっても、世界に愛される京都であり続けてほしいと心から願う。そして、それを守り、後世に繋いでいくのは僕たちの役目だと強く感じている。



優秀賞

私の中の変化



荏原第一地区

荏原第一中学校

九年

伊藤優里

今年の誕生日に、私の出生時についての話を両親から聞きました。私は今から一五年前の七月に四七八グラム、二二週で産まれました。約りんご一個半の重さです。生後何か月も入院をし、何回も生命の危機があつたそうです。発達が人よりも遅く、話すことも歩くことも、人並みにできませんでした。性格もおとなしく、幼稚園の頃から本ばかり読んでいて「伊藤さんって何を考えているのかわからない、すごく静かだよ」と言われたことも記憶として残っています。スポーツ全般が苦手で、ルールもよく分かっている状況でした。特に、走ることは苦手です。周りの人よりも肺が小さいので短距離でも、すぐに呼吸が苦しくなってしまう長く走れません。

小学五年生の時には、バセドウ病が見つかり、二週間

入院をしました。バセドウ病とは、甲状腺機能が過活動になる病気です。異常な疲れや頻脈、体重減少などをはじめ、全身に様々な症状が現れます。今でも、完治せずに薬を飲みながら生活しています。院内にいる同じ境遇の友達と過ごす中で、当たり前だと思っていた生活が当たり前ではないことにその時気が付きました。例えば、勉強することができるといことです。退院をしてすぐの五・六年生の頃は勉強したいと思っても体がつかなくて、文字が頭に入ってこなかった時がありました。勉強が難しくなってくる小学校高学年の時期でもあつたので、退院後勉強を進めるのがとても大変でした。しかし、院内学級では勉強をしたくてもできない状況の子が沢山いたことを思い出しながら取り組みました。

運動面では、制限がかかり体育の授業は見学をするこ
とになりました。運動は得意ではないし、興味もなかった
ので空ばかり眺めていました。その時は、みんなと何か
をやり遂げるといふ達成感はなく、無気力な気持ちで
した。しかし、ドクターストップが解除されて少しずつ
運動を始めた時に、実は私もみんなと授業を受けたかつ
たのだと気が付きました。とても息が苦しかったけれど
運動をみんなとできたという充実感は今でも覚えています。

今思えば、クラスメイト達が体育の授業をしていた時、

自分が見学をしていたとしてもみんなの動きを動画で撮らせてもらったり、自分で工夫することで、積極的に関わっていれば、もっと学校を楽しめたのかなと思います。今でも、運動は得意ではないけれど、運動は健康には欠かせないもの、楽しむものだと思えられようになり自分のものの見方、考え方で景色が変わることも病気を通して学びました。辛いことが多い入院ですが、入院病棟には、それぞれ年齢や状況は違いますが、人見知りの私にも積極的に話かけてくれる年下の子もいて安心しました。

人が人として生まれてきたのには意味がある、どんな人でも少しでも人と支えあって生きていけば、自殺やいじめも減っていくのではないかと強く感じます。私自身、九年生になって大切な仲間ができました。今までは学校に行くことが辛いという気持ちもありました。しかし、今ではその仲間が待っていると思っているので、楽しく学校に行っています。あと一年も経たないうちに私たちは中学校を卒業してしまうけれど、今の仲間を大切にしていきたいです。両親の手にすっぽりと収まるくらい小さく、生まれたことや育ったことが奇跡だと言われ続けてきましたが、実は私自身あまり実感がありませんでした。しかし、今回自分の生い立ちを思い返してみても、その意味が分かったような気がします。

ぼんやりと空を眺めているだけでは、積極性がなく本当の気持ちは伝わらないことも分かり、今では自分の気持ちをどのようにして相手に伝えるか、できるだけ考えながら話すようにしています。人と関わることの大切さ、生まれたことに日々感謝しながら生きていきたいです。



審査員特別賞

人を幸せにするもの



荏原第五地区

豊葉の杜学園

九年

櫻井 悠真
さくら い ゆう ま

「いよかん食べていい予感。」私は突然何を言っているのでしょうか。「ふとんがふっとんだ。」この言葉は、一度は聞いたことがあるはずです。そう、私はダジャレを言っているのです。

みなさんは、ダジャレが好きですか。私は大好きです。私と同じように、ダジャレが好きな人の多くは、ダジャレを聞くことが好きで、言うことには抵抗があるのではないのでしょうか。

では、なぜダジャレを言うのでしょうか。言うのは勇気がいるし、すべるかもしれないという不安もつきまといまします。それでも勇気をもってダジャレを言うことで、挑戦する姿勢が身に付きます。心の中で思っているだけでは、おもしろいのは自分だけです。相手を笑わせること

はできません。「まず、言ってみる。」、そうしないと相手に伝わらないし、成功するかどうかわからないけれど、言ってみないと、相手が笑う確率は、ゼロパーセントのままです。挑戦しないことに成功はありません。たとえば笑ってもらえなかったとしても、ダジャレを言い続けることで、身に付く力があります。相手に伝える間を考え、タイミングよく言葉を発することができるようになり、何事も躊躇せずに行動できるようになったりすることにつながります。それが活きたのは、八年生のときの学級委員への挑戦です。私のクラスでは、学級委員がなかなか決まりませんでした。なり手がいなくて、時間だけが過ぎていく中、「できるか、できないかじゃない。やるんだ。」と思い、私は手を挙げました。学習成果実行委員など、他のことにも積極的に挑戦するようになり、自分に自信が付き、大きく成長できたと確信しています。

次にダジャレを聞く側について考えてみました。だれもが笑顔になれます。一番はこれだと私は思います。ダジャレを聞くと、多くの人が笑顔になります。ときにはすべってしまうこともあります。そのときでさえ、「くすつ」とスベリ笑いが起きます。この「くすつ」と笑顔になることによって、ダジャレを聞く側も、言う側もいい気持ちになり、なごやかなひとときを共有できます。

母とテストの点数で言い合いしたときのことです。互

いに引くに引けず、ピリツとした空気が流れました。母に「何時間勉強したのよ。」と聞かれたので、「一次関数は、一時間っす。」と。それを聞いた母は、今まで怒っていたのがうそだったかのように笑い出しました。

さらに、ダジャレを言う側、聞く側、どちらにも当てはまることがあります。それは考える力が身に付き、頭の回転が速くなることです。ダジャレを聞いて、その瞬間に「どのワードが何にかかっているのだろう。」と考える、間違いなく聞く側は頭をはたらかせ、思考力が身に付きます。こうして、今年受験生の私たちにとって必要な能力が、ダジャレで身に付くのです。

コロナ禍でエンターテイメント業界が打撃を受け、活動がストップしたとき、娯楽の価値が問われました。エンターテイメントが失われた日々は退屈で、笑うことが少なくなりました。新年早々、大きな災害が起き、暗いニュースが流れました。今も大変な思いをかかえている人がたくさんいます。人々が落ち込んでるときこそ、笑いが必要です。「くすつ」といったほんの小さな笑いが薬となり、周りの人が元気になるのだと思います。人を幸せにしたい、幸せになりたいと思ったとき、まずダジャレを言うてみてください。だれもが笑顔になるダジャレは、人を幸せにするものだと思います。これから、私がダジャレを言うことで、だれかが「くすつ」と

笑顔になる、そんな人を幸せにするダジャレに挑み続ける毎日を送ります。



奨励賞

勉強



荏原第四地区

荏原第五中学校

八年

塚崎里音
つかさきりおん

「勉強」この言葉を聞くと、それぞれ様々な感情が浮かんでくるだろう。「嫌だ」「やりたくない」「思い出したくなかった」、私の周りでもよく聞く。しかし、私にとっての「勉強」はこのような感情からかけ離れている。私にとっての勉強は「自分を守ってくれるもの」ただこれだけだ。

私は勉強することで様々なことから守られてきた。勉強をすることで色々な感情が生まれた。私の家族構成は、父、母、三つ上の双子の兄と姉だ。兄と姉は双子だったため、同時期に物事をやり始めることが多かった。そのため、「私も一緒に始めたい」。その一心で、小さい頃から兄と姉の真似をずっとしていた。勉強を始めたのも、兄と姉と同じことをしたかったからだ。そうしているう

ちに、私は勉強にハマってしまった。小さい頃の私にとっては、「ドリルなどは「勉強道具」という名の「おもちゃ」だった。細かい違いはわからないが、それをやるとなぜか周りがほめてくれる。それがなによりも嬉しかった。

私は小さい頃から「勉強をしなさい。」という言葉を聞いた記憶がない。だから、勉強に悪いイメージをもたなかった。自分がやりたいときにやると、褒めてくれる。そして何よりも楽しかったのだ。私は勉強から様々なことを学んだ。計画的にやる大切さ、問題集を一冊最後までできちんとやりきることによって、最後まで諦めない力。そして柔軟に考える力や効率よく頭に入れるやり方。勉強すれば知識を得ることができ、様々な考え方も得ることができる。また努力をしてテストを受けたときに結果が結びつくと、自分の努力が実る経験ができ、その後の自信にもつながってくる。勉強にはたくさんの「いいこと」があるのだ。もちろん、勉強を始めたばかりのときと今では勉強に対するイメージは変わってきた。内容が難しくなり、より柔軟に考えないといけない。昔は簡単に感じていたけれど、最近は悩む問題も増えてきた。しかし、今も昔も変わらないイメージがある。それは「楽しい」ということだ。

私は何か嫌なことがあっても、勉強している間は嫌なことを考えない。目の前にある問題を解いている間に気

持ちが楽になる。しかし、私も勉強が嫌だと感じることはある。それは、周りと比べられたとき、そして「勉強をしても意味がない」と考えながらやるときだ。ただ、ここから学んだこともある。自分と人を比べてもいいことではないということだ。勝負しているつもりになって頑張れる人はいるかもしれないが、気づかないだけでたくさんプレッシャーがかかり、そのうち勉強自体がプレッシャーに変わってしまうのではないだろうか。もう一つ学んだことは気持ちから出る影響の大きさだ。「楽しいもの」そう思うと勉強は楽しくできる。しかし、大きなプレッシャーを感じたり、「やっても意味がない」と感情が生まれると、勉強するのが苦しくなってしまう。ゲームと同じだ。ゲームは楽しいものだと思ってプレイしているから楽しく感じる。強制されたり嫌なものだと思ったりすると、「飽き」という形でやらなくなってしまうのではないかと思う。

最後に、私は言いたいことがある。人の点数を見て「頭がいい人はいいいね。」と言わないでほしい。勉強ができる人だって見えないところでたくさん努力をしている。誰にも負けない量の勉強をして、効率も上げている。しかし、その努力がなかったかのように言われると勉強への意識が変わってしまう。だから、褒めてくれるのはいいが、一度考えてから発言してほしい。そして、自分

の好きな教科を一つでもいいから一生懸命その教科と向き合って学習してみてほしい。きつと「勉強が自分を守ってくれる」この言葉の意味が理解できるようになると思う。そして、好きな教科以外の見方までも今までと変わってくるのではないだろうか。



奨励賞

相手に配慮する人



八潮地区

八潮学園

八年

中^{なか}村^{むら}

葵^{あおい}

自分と自分以外の人、知り合いもちろんですが、特にたまたま電車が一緒だった人などその空間でしか関わらない人は、年齢や、アレルギーがあるといった特性など、自分と違うところが多くあります。みなさんは、それぞれの違いについて配慮は必要だと思いますか。ここでいう配慮というのは、幼児が泣いてしまうのは当たり前なのでそれに対して何も言わない、その人が努力してもすることが難しいと考えられることを求めないなどです。

努力してもすることが難しいと考えられることの一つに「マスクをつけること」があります。コロナ禍で、マスクをつけることが当たり前の時代だった頃、私は、年齢的な理由や個人の特性などからマスクをつけるのが難

しい人に対して、配慮しなければいけないと思いました。二年くらい前に母、妹、ベビーカーに乗った弟と駅ビルに出かけました。エレベーターに乗ったとき、ベビーカーに乗った子供を連れた家族三人と、六十代くらいの夫婦と乗り合わせました。乗り合わせた子供はマスクをつけていませんでした。それを見た夫婦が、エレベーターの中で周りによく聞こえるくらいの声量で「なぜ、子供にマスクをつけさせないのか、子供の間で感染が広がっているのはマスクをつけさせていない親が悪い。」と話していました。乗り合わせた家族は申し訳なさそうな顔をしていたのを覚えています。自分の弟もマスクをつけていなかったなので何か言われないかすごく怖かったです。

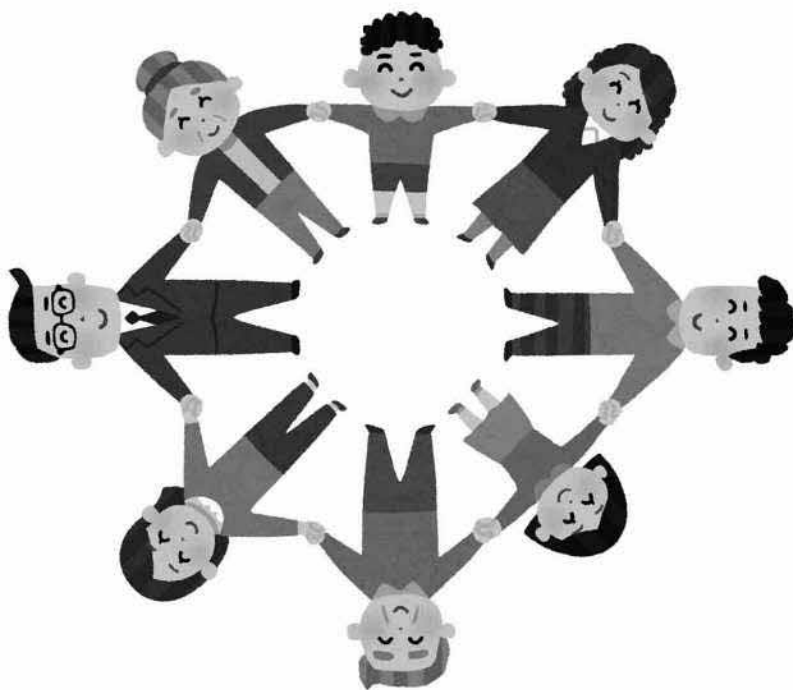
この出来事を振り返ると、夫婦は小さな子供に対して配慮する必要があったのではないかと考えました。その頃は子供の間で感染が流行っていた時期だったので、感染が広がるのが心配な気持ちはよくわかります。しかし、本人やその保護者のいる前で言うべきではないと思いました。それと同時に、乗り合わせた子供はもしかしたらマスクをつけるのが難しかったのかもしれない。保護者はマスクをつけさせたくても、子供が自分で外して投げてしまう、皮膚が荒れてしまうなど、様々な理由があってつけさせることができないという事情があった

のではないかと私は考えました。

それまで私は、「配慮」について考えたことがありませんでした。でも、この出来事から、人に対して不満があったとしても、なにか理由があるかもしれない、と想像することも必要だと考えるようになりました。この時だったら、「なぜ感染症が流行っているのにマスクをつけないんだ。」と責めるのではなく、「まだ、小さいからマスクをつけるのが難しいのかな。」と相手を思いやる考え方をすることで、必要以上に不快な思いをさせることがなくなるかもしれません。また、配慮の中にも種類があります。一つ目は、お年寄りに席を譲るなどの行動に移す配慮。もう一つは、例えば両親に抱っこされているような子どもに「泣いている声がうるさい。」と不満もった時、その場で不満を相手にぶつせず、「まあ、しょうがないよね。」と自分の中に留めて置き、行動に移さない配慮です。行動を起こすことが苦手な人も多いと思います。ですが、行動に起こさずに自分の考え方で相手に配慮することができます。

私は、相手を必要以上に傷つけないためにも、配慮は必要だと思いました。もし配慮がなければ自分の特性のせいで外に出たくなってしまうったり、人と関わりたくなかったりしてしまうかもしれません。そういうことがないようにするためにも、自分の身近な人、その場

で会った人に関わらず相手を尊重できるようにしたいです。



奨励賞

『楽しい』の力

大崎第二地区

大崎中学校

八年

小林 亮太
こばやし りょうた



みなさんが楽しいと思う時は、どんな時ですか。友達と遊んでいる時ですか。ゲームをしている時ですか。スポーツをしている時ですか。誰にでも楽しいと思える時があると思いますし、その時間が楽しく、好きだと思います。今回、私が主張するのは、その『楽しい』についてです。

私は、今年の夏休み、ほぼ毎日、とても暑い中、野球の練習をしていました。私は、地域の野球チームに所属していて、日々野球が上手くなるよう、そして、試合で勝てるよう、頑張っています。夏の練習では、監督やコーチに、野球のさまざまなプレーのことで、注意を受け、叱られる日々でした。その度に、「辛い」、「練習したくない」と思いました。試合で勝ち上がり、上の大

会を目指していく以上、苦しいことの方が多くはわかっていきます。それでも練習は辛く、野球の楽しさを忘れてしまうことがあります。

そんな時、試合で、良いバッティングができたり、自分の考えがうまくプレーに結びついたりした瞬間がくると、日頃、辛くて、もうやめたいと思っていたことも忘れて、やっぱり「野球は楽しい」と思います。どんなに練習が苦しくても、「楽しい」と思える瞬間があることを、私は、何度も、野球を通して、経験してきました。だからこそ、「楽しい」について主張したいと思ったのです。私が常々感じるのは、「楽しい」は自分を動かす力になるということです。

みなさんは、学校は勉強ばかりで、めんどくさいなどと思ったことはありませんか。朝起きて、「行きたくないなあ」と思うことなんて、私は、ほぼ毎日です。それでも、準備をして、いざ学校に来ると、友達がいいて、いろいろな話をして、笑って、結局、「楽しい」と思う自分がいます。

また、日々の生活の中で、『楽しみ』を見つけることも大切だと思います。『楽しみ』があれば、その楽しみに向かって、人はがんばれます。例えば、私の場合、友達と久々に遊ぶ約束をしたり、好きなアーティストのライブに行く予定があったりすると、その日まで、「練習、

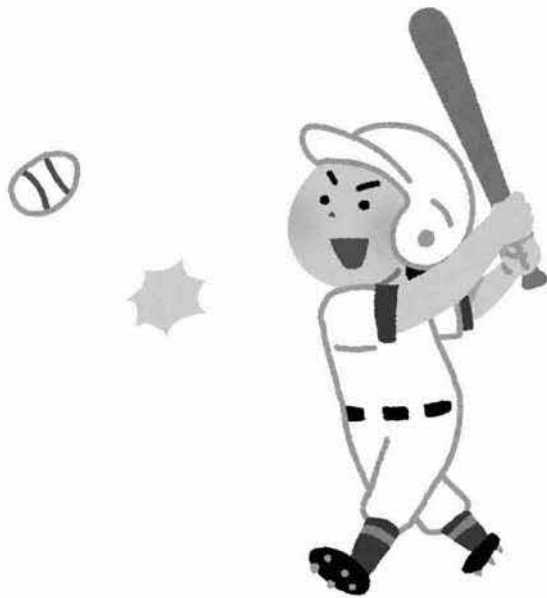
頑張ろう」と思えます。そして、その日を目一杯楽しむと、「頑張つてきてよかったあ」、「よし、明日からまた頑張れる」と思えます。ですから、〃楽しみ〃の力も、生きていくためには、とても頼れる力だと思えます。

しかし、誰にでも楽しい時間があれば、楽しくない、悲しい時間だってあります。誰かに嫌な思いをさせられたり、ついていなくて、いろいろなことがうまくいかなかったりした日は、どうしますか。泣きますか。友達に話しますか。それも良いと思えます。私は、そんな時、よく笑うようにしています。笑っていると、不思議と心が軽くなり、悲しいことや、苦しいことが、何だかちっぽけなものに感じられてきます。笑うのが苦手な人は、鏡の前で笑顔になるのもいいと思います。そして、「悪いことがあれば、きつと何か良いことがやってくる」と信じれば、明日がきつと〃楽しみ〃になるのではないのでしょうか。そう考えると、楽しくない時も案外、捨てたものではないと思えてきます。

人は、生きている以上、さまざまな経験をし、その度にさまざまな感情を持つと思います。日々を過ごしていく中で、とても良い一日があったり、とても悲しい一日があったりします。それでも、生きているなら、明日はきます。その日あった、悲しいことや苦しいことにとらわれ過ぎず、明日の「楽しみ」を見つけて、明日の「楽

しい」を満喫しましょう。そうすれば、一日一日が大切になるのではないのでしょうか。

「楽しい」の力。私はこの力を信じ、これからも、多くのことを経験し、さまざまな気持ちを味わい、前に進んでいきたいと思えます。



奨励賞

不透明な未来を思案するあなたへ



荏原第三地区

荏原平塚学園

九年

佐藤 瑠心

私には将来就きたい職業はありません。

しかし、熱中できることはたくさんあります。絵を描くこと、歌うこと、演技をすること、本を読むことも好きですし、アニメを観たりゲームをしたりすることも好きです。ですが、どれも将来仕事としてお金を稼ぐことができない気がしません。特に絵や歌、演技などで活躍している人はほんの一握りであって、自分がその一握りの中の一人になれるとは思いません。

受験生になり進路の話が多くなってくると、担任の先生からは私の見通しの立たない将来を案じて「美術系の学校には興味ない?」「演技の才能を活かして…」とさまざまな学校を提案していただきました。しかし、私にとってはどれも興味がなく、志望校は自分と近い偏差値

というだけの普通の高校になりました。仲のいい友達には漫画家、音楽家、作家と軒並み素敵な夢をもっているのに、私は友達のように大物になれる未来を想像できません。将来やりたいことなら山ほどあるのに、将来なりたい職業と聞かれると何も答えられなくなってしまいました。

以前、給食のときに、班で「将来なりたい職業」という話題になりました。思っていたよりもみんな将来のことをあまり考えていないのを見て、ほっとした自分がありました。しかしながら、そんな時に堂々と「私は将来こうなりたい」と言える友達を見ると、憧れを感じました。さらに、そのために努力している人はすごく輝いて見えました。

その日、家に帰った後、妹にその話をしました。すると返ってきた言葉は私の妹らしく、雑でありながらも優しい言葉でした。「今決めなくてもいいんじゃない? 楽しそうな会社に入って、これからも今までみたいに絵を描けばいいじゃん。」と。私は見失っていました。なりたい職業に就くことだけが明るい将来を築く手段ではないのかもしれないと。

先ほど述べた、山ほどある将来やりたいこと。その一番大きなもののひとつは、「妹と二人暮らしをすること」です。妹は発想が多彩で面白く、大雑把なところもある

けれど、いつもクラスの中心にいるような明るい子です。また、私と同じように絵を描くこと、歌うことという趣味をもっています。妹という時間はいつも楽しくて、心の底から笑えます。それに、すでに私よりも料理ができる妹の味噌汁は絶品です。私たちは何があってもお互いの味方で、でもたまにケンカもします。二人暮らしする！と言い始めたのがいつかもう覚えていないくらいです。私たち姉妹は、「仲良し」なんかじゃ表せないくらい最強の関係ですから。

私は、どうなるかわからない将来を案じるよりも、今を全力で楽しんで、いろんなことに挑戦して、失敗したら思い切り悲しみたいと思っています。未来がどうなるかは誰にもわからないのだから、今の人生を華やかに自分らしく飾りたいです。受験生なのでやりたいことを全部やれるわけじゃないけれど、それでも大好きな友達と楽しい思い出も失敗した思い出も、たくさん積み重ねられたらいいなと思います。

きつと、私と同じように将来に頭を悩ませ、苦悩する日々が続いている人があると思います。でも、自分にとって一番大切なものは明るい未来ではなく、明るい現在なのだと私は信じています。好きなことをして、日々の中の小さな幸せを実感すること。今を幸せで満たしたのなら、きつと未来も明るく温かい幸せに満ち溢れているで

しょう。私はそんな人生を送りたいです。



奨励賞

新しいコミュニケーションスタイル

大井第二地区

伊藤学園

八年

増^{まし}野^の心^み香^か



近年、私達の主要なコミュニケーションの手段として重宝されているソーシャルネットワークサービス（SNS）。スマートフォンをはじめとした電子機器でやり取りを行い、「スマホを取り上げられたら生きていけない」という友達もいるほどです。今やSNSは私達中学生の生活の一部、というほど浸透しています。この新しいコミュニケーションツールの出現は、私達のコミュニケーションスタイルに大きな影響を与えていると私は思います。

この新しいコミュニケーションスタイルの最大の特徴は「言葉の簡略化」です。私達は普段、SNSのチャット機能でやり取りをする時、短文でやり取りをすることが多いのではないのでしょうか。それは、できるだけ早く

返信しようと、長文を避けているためと考えられます。何かリアクションを取るにしても、「やばい」、「それな」、「まじか」、「すごい」などの短い言葉で返すことがほとんどです。また、絵文字やスタンプを利用した返信も一般的になっています。さらには、インターネットスラングも次々に生まれ、現実社会においても広く使われるようになっていきます。

私は、この新しいコミュニケーションスタイルに少し困惑しています。会話のテンポが早くなり、ついていくのが難しくなったからです。略語などが使われるようになり、言葉が短くなると、会話のテンポも自然と早くなっていきます。私は会話のテンポが遅い方なので、友達の会話のテンポに付いていくことが難しく、そのため、相手の気持ちを汲み取り、自分の気持ちを十分に伝えることが出来ずに会話が終わってしまうことが多々あります。

相手の気持ちを汲み取り、自分の気持ちを伝えきれないというのは何ともどかしいことでしょうか。そこで、私は二つの解決策を考えました。一つ目は、聞き役に徹するという方法です。話のテンポが速くてついていけない時は、無理に返事をするのではなく、短い言葉で相槌を打つことを意識します。二つ目は、表情やジェスチャーを活用する方法です。新しいコミュニケーションスタイル

ルに大きな影響を与えたSNSでは、リアクションの代わりに絵文字やスタンプで気持ちを伝えることがあります。その方法を取り入れて、相手の話に共感している時は笑顔で頷いてみたり、驚いたときは目を大きく見開いてみたりして自分の気持ちを伝えます。

私は、実際にこの二つの方法を実践してみました。一つ目の「聞き役に徹する方法」は、とても上手くいきました。「うん」や「なるほど」といった短い言葉で相槌を打っていると、次第に相手の話の内容が頭に入ってきて、自分から質問したり、気持ちを伝えたりすることができるようになりました。二つ目の「表情やジェスチャーを使う方法」も効果的でした。瞬間的に表情を変えたり、ジェスチャーを交えたりして会話するのは、慣れるまで時間がかかりましたが、一つ目の方法同様に自分の気持ちを上手く伝えることができました。

私はこの二つの方法を実践して、気付いたことがあります。それは、時代によってコミュニケーションスタイルこそ変わっているものの、コミュニケーションにおいて大切なものは変わっていないということです。まずは、相手の話をしっかり聞く。そして、表情やジェスチャーを交えながら自分の気持ちを上手く伝える。これだけで、円滑なコミュニケーションを取ることができるようになると思います。皆さんも、友達とコミュニケーションを

とる際には、是非この二つのことを意識してみてください。きっと、お互いの理解が深まり、強い信頼関係を築くことができるようになると思います。



奨励賞

国際教育の必要性

荏原第三地区

戸越台中学校

八年

吉 澤よしざわ

風なぎ



あなたは、海外へ行ったことがありますか？また、あなたは、海外へ行ってみたいですか？

僕は、英語をかなり話せる、というわけではありませんが、三年ほど前からオンライン英会話を毎日やっていて、よく海外の人と英会話をします。最初は海外の人と会話することに、不安しかありませんでした。しかしいざやってみると意外と楽しく、今でも続けられています。それから海外のことに興味が出てきて、いつか海外へ留学をしてみたいと思いました。そして、今年から品川区が英語の授業でオンライン英会話を導入して、時々、英会話を学校でするようになりました。

そんな中、周りの友達がオンライン英会話の授業を終えた後、うまく会話ができなかった人と、割と会話がで

きた人に分かれていました。英語ができる、できないに関わらず、ジェスチャーなども使って、なんとか会話を成立させた人もいれば、会話を最初からあきらめてしまい、沈黙が続いてしまった人もいます。僕は、この、英会話がありできない人と、できる人の差は、英語の必要性の意識にあると思います。

学校の英語の授業を考えてみたとき、僕たちは小学校から英語を学んでいるのに、英語で話すことをためらう人が多いです。「ここは日本だから」と言う人もいます。その一方で、「英語はできないと困るよ」と言う人もいます。

こういった、英語に対する意識の差が生まれる原因は、三つあると思います。

一つ目は、その子自身の興味関心です。いくら英語の必要性を力説しても、その子自身が英語や海外に興味や関心を持たなければ、英語の必要性に気付かぬふりをして、英語を熱心に勉強することを避けることになります。では、その興味関心の有無がどう生まれるかというと、英語に対する意識の差が生まれる原因の二つ目ですが、身内、特に両親の教育についての方針の影響が、大きいと思います。両親が英語の必要性を強く感じている場合、子どもが英語の歌や絵本に接する機会は多くなり、英語への関心につながりやすいのではないかと思います。実

際、僕も両親に言われてオンライン英会話に興味を持ち、続けています。

三つ目は、英語と海外に触れ合う環境の有無です。日本は島国のため、ヨーロッパなどと比べて自分の生活圏で他の国の人の出入りが日常的に多くあるわけではありません。僕の学校に日本語が通じない人はいませんし、僕は今、朝起きてから寝るまで、英語の授業以外では英語が話せなくてもまったく困りません。日本語を話せない人と接する機会も、オンラインレッスン以外ではありません。このような環境では、意識して海外と触れ合うなどしないと、英語の必要性を感じにくいです。

僕は、今年の夏休み、タイに旅行に行きました。現地の人たちは、着ている洋服が違ったり、言葉の感じが違ったり、自分とは全然違う人のように感じました。それでも何日か過ごすうちに、僕にとっては特別に見える現地の人たちの生活は、彼らにとっては僕が日本で送っているのと同じような、普通の日常生活なのだと思えるようになりました。その後は、現地の人たちを少し身近に感じました。あまり話しかけることはできませんでしたが、海外で、会話の手段として英語を使うしかないという経験をするには、もっと英語を勉強したい、英語ができるようになりたい、やっぱり英語は必要だ、と強く僕に思わせてくれました。

僕は、もっともっと広い世界を見てみたいです。色々な国へ行ってみたいです。現地の人と直接話をして、彼らが何を食べているのか、どんなことを楽しみにしているのか、色々なことを知りたいです。そして、日本のこと、面白い漫画や美味しいお菓子がたくさんあり、ルールをしっかりと守り、優しい気づかいができる人がたくさんいる日本のことも、知ってもらいたいです。そのために、今よりももっと、英語ができるようになりたいです。家で続けているオンライン英会話レッスンや、学校の英語の授業など、できることを確実に積み上げて、もっと自由に色々な人と会話ができるように頑張ります。そしていつか必ず、自分の目で広い世界を見に行きます。



奨励賞

「できない」から「できる」へ

大井第一地区

浜川中学校

九年

飯村多聞
いむらむらたもん

添中

「努力をすれば必ず報われる」

皆さんも一度はこの言葉を耳にしたことがあるでしょう。私も以前から知っていて、この言葉を信じています。世の中ではこれが本当か、またそうではないかの議論が交わされ、さまざまな意見がありますが、皆さんはどのように考えますか。私は、努力は報われるものであるし、「するべきもの」と捉えています。

今でこそこの言葉を信じている私ですが、昔はそうではありませんでした。小学生のとき、私は金管バンドに所属していましたが、入ってから一、二年の間は、地獄のような日々でした。私の実力は同年代の中でも下手の部類で、毎日のように先生からの厳しい指導を受け、休み時間に呼び出されて個別指導を受けたりもしました。

その現状を変えようと、毎日放課後に一人で練習したり、家で何時間も練習したりしましたが、一向に上達する気配はありませんでした。そんな生活に限界を感じ、一時はやめようとまで思っていたほどです。「努力なんて無駄だ」と…。しかし、この考えは六年生に進級したとき、一気に覆されることになりました。急激に演奏の腕が上がり、今まで出せなかった音も軽々と出せるようになりました。私はこのとき初めて「努力は報われるものだ」と認識しました。今ではこの言葉を心の芯に置いて生活しています。もし今、何かに向かって努力をしていて、それを疑ってしまっている人がいたら、どうかそこで折れずに続けてほしいと思います。諦めてしまったら、ただの無駄骨になってしまいます。万が一、努力が実らなかつたとしても、その行為自体があなたの今後の人生にプラスに作用していくはずですよ。だからこそ、努力は「するべきもの」なのです。

努力が「できる」人たちがいる一方で、世界には努力が「できない」人たちもいるのです。皆さんは児童労働という言葉を知っているでしょうか。

児童労働とは、子どもが学校へ行かずに労働することです。日本では考えられない話ですが、世界ではこれが頻繁に起こっているのです。国際労働機関が公表している児童労働の現状によると、二〇二〇年時点で五

十七歳による児童労働者数は一億六〇〇万人に達しています。これは世界の五〜十七歳の子どものうち、一〇人に一人が児童労働に従事していることになりま
す。今、この瞬間も働いている子どもがいるのです。努力をしたくてもできない、教育を受けられず、努力するための基盤すら整えられていない環境。そんな状況に置かれて
いる子どもが、世界には数多くいます。

こうした児童労働をなくし、誰もが同じ土俵で努力できる
ようにするために、世界ではさまざまな取り組みが行われています。その一つとして、SDGsによる目標設定があります。一七の目標のうちの八つ目「働きがい
も経済成長も」で、二〇二五年までにあらゆる形態の児童労働をなくすことが掲げられています。また、日本では児童労働を法律で禁止し、児童労働が起る原因の一つである貧困をターゲットにした支援活動が行われています。

では、私たちにできる取り組みとは何でしょうか。私は、一人ひとりが当事者意識をもって問題と関わり続けることが、解決の第一歩になると考えます。その関わり方はどのような形でも構いません。問題を知ることやフェアトレード商品の購入、さまざまな活動への参加など、多岐にわたると思います。こうした一歩一歩の積み重ねが、問題を解決していく力になると信じています。

誰もが平等に努力「できる」ようにするために、私たちの小さな手で大きな世界を変えていきましょう。



奨励賞

運命を変える



品川第一地区

品川学園

九年

米よね澤ざわ

諒りょう

皆さんは運命や直感といったオカルティックなものを信じていますか。例えば、給食のメニューが食べたかったものと同じだったとか、道を歩いていたら普段なかなか会えない友達と会えたとか、テストで適当に選んだ選択肢が合っていたとか。皆さん大抵、今日ツイてる、神様ありがとうという風に思いませんか。これを仮にオカルティックなものを信じているとするならば、少なくとも私は信じていることになります。でも私、思うのです。この考え方はネガティブなことにも作用していませんか。例えば、帰ろうとしたら雨が降ってきたとか、欲しかったものを買おうとしたら昨日はあったのに売り切れていたとか、車が大きい水たまりの上を通ってびちょびちょになったとか。そうしたら皆さん、最悪だ、今日

運悪いななりませんか。これは方向性が真逆なだけで起こっていることはほぼ一緒なのです。結局はオカルティックなもののせいになっているのです。私はあまり良いとは思いません。そこで私が提案したいのは、視点を変えてみるということです。よく言われるのは思考だと思うのですが、そんなに簡単に変わるものではないと思うのです。正直に言うとうと簡単に変えられるのなら苦労していません。私も多分イライラしているときに「ポジティブ思考だよ」と言われたらキレてしまうと思います。ですが、視点を変えるのは案外簡単です。さっきの例を使うのなら、雨が降ってくれば「あの子今日部活いやだっって言っていたし、雨になって良かったか」と考えて見たり、欲しいものが売り切れなら「私よりも必要としている人のところへ渡った」と考えたりすればいいのです。例えば服がびちょびちょになったとしても「車の運転手は誰かのために急いでいた」とすれば少しは心が楽になるのではないのでしょうか。しかし結局のところすべてを許すような寛大な心をもてと言っているのと変わらないと思うかもしれません。しかし、物は試しと言います。ちよつとだけでもいいのでチャレンジしてみませんか。最後にとある言葉を紹介しようと思います。ものすごく有名ですし、引用する先生なども多いので聞きなじみがある人もいると思いますが、もう一度。「心が変われ

ば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」しかし、前述のとおり心はそう簡単には変わりません。だから私は「視点が変われば思考が変わる。思考が変われば心が変わる」と前に付け足しておこうと思います。皆さんの心にもこの言葉と一緒に付け足されていれば幸いです。



奨励賞

普通って？



大井第三地区

富士見台中学校

八年

吉_{よし}田_だ璃_り子_こ

「普通」ってなんだろう。みなさんは、この言葉の意味について考えたことはありますか。私は先日、電車の中で、「〇〇ちゃんって普通じゃないよね。」という会話を耳にしました。そして私は、この言葉に強く違和感をもちました。

この「普通」という言葉は、日常的によく使われる言葉です。辞書で意味を調べてみると、「特に変わっていないこと。ごくありふれたものであること。」などと記されています。

では、「普通の人」とはどんな人でしょうか。例えば、健康で障害などのない人は、全員普通の人と言えるでしょうか。反対に、病気をもっている人や障害を抱える人などは、普通の人とは言えないのでしょうか。

私は、この「普通」という言葉は、人に使うべきではないと考えます。なぜなら、普通の人などこの世に誰一人として存在しないと思うからです。例えば、似ている顔の人、同じような学力の人、同じような考えを持っている人は、世の中にきつと少なからずいるでしょう。しかし、その一人一人が唯一無二の存在で、違いのない人間なんていないはずなのです。もしそうでないとしたら、同じ人種、同じ民族の中に一人だけ異なる者がいたら、「普通ではない人」ということになってしまいます。

ではなぜ、「普通の人」などという言葉が使われるのでしょうか。それは、ある集団の中で、顔や学力や考えなどがよく似た多数派の者たちが、外見にコンプレックスを抱えている人や、学力が劣っている人、考え方が少数派の人たちなどに対して、一方的に「普通ではない」というレッテルを貼っているのだと思います。こうして多数派の人たちは、無意識のうちに優位な立場を得てしまいます。しかし、そもそも同じ人間などいないのだから、「普通の人」という言葉自体、おかしい言葉である、私は感じます。

私は、人間は一人一人違う考えを持っていたり、自分とは違うところがあつたりするからこそ面白いし、その人のことをもっと知りたいという気持ちが湧くのだと思います。また、それまで自分が持っていなかった新たな

視点から、物事を考えるきっかけにもなります。友達との何気ない会話も、みんなが同じ考えや行動であつたら、つまらないものになってしまうのではないのでしょうか。

この「普通」という言葉には、様々な種類があると思います。例えば、よく大人が子どもに対して言う、「お姉ちゃんなんだから」とか、「女の子なんだから」というような言葉は、まさに自分にとっての普通を押し付けている言葉だと思います。このように、人は無意識に、自分にとっての「普通」を他者に押し付けてしまうのです。しかし、そんな時こそ、その違いをお互いに理解し、尊重し合うことが大切です。

アインシュタインの名言に、「人生を楽しむ秘訣は、普通に拘らないこと。普通と言われる人生を送る人間なんて、一人としていやしないのだから。」という言葉があります。つまり、そもそも「普通」などという概念は人間が生み出した幻想で、そんなものを追い求めても仕方がないということです。だから、他者と比較して窮屈な人生を送るよりも、私は私らしく、自分らしく生きていきたいです。そして、自分と違う考えを持っている人がいたとしても、それを否定したり排除したりして、「普通じゃない」と決めつけるのではなく、互いに歩み寄っていけるよう努力していきたいです。そのような努力の積み重ねによって、世界中の人たちが手を取り合って生

きていけるような世の中になってほしいと、私は考えています。



奨励賞

社会の外側



大井第一地区

鈴ヶ森中学校

九年

稲永

椎

全ての生き物が水中にいた頃の地球に、数学という教科は存在しなかった。恐竜が森を駆け巡った時代に、お金の「割り勘」なんて概念があっただろうか。当たり前だがこれらは全て、人間が何も無いところから創り出した、独自の概念である。

大昔から、私たちは極度の考えたがりかつ知りたがりだった。溢れんばかりの好奇心でたくさんものを見つけて出し、名前をつけた。哲学や思想、宗教などの実体的ないものを創造した。意思疎通のため、言語も開発した。何かうまくいかないことがあるば、試行錯誤を重ねた。わたしたちの身の回りにある言葉の数々は、概念は、すべて人工物である。先人たちにより形成された綿密な社会のもとで現代の人々は生活している。そして、生まれ

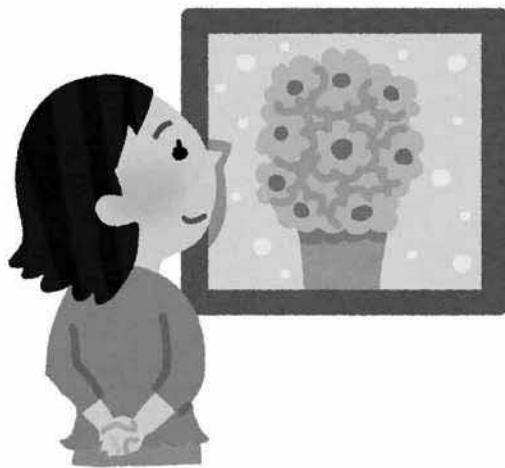
落ちた瞬間からその社会の中で生きてきた私たちは、どうしても人工物の概念に心を囚われる。お金が欲しい、立場が欲しい、いいねが欲しい。人間関係がうまくいかない。他人に認められたい。学歴が全て。あの思想を持つ奴とは話が合わない。そう思うことは、別に悪いことではない。人生において切っても切り離せない存在である社会を、自分なりに生きようとした証だ。だが、そればかりに意識を持っていかれるのは、少し勿体ない。

私は、綿密に形成されたこの社会を生きる現代人こそ、一度、地球のあたたかさを、本質を知る必要があると思う。目の前のものに集中することも大事だが、それに視界の全てを覆われてはいけない。人間関係や立場、権力などといったものの全ては人間が集まることで生じる現象であって、それがこの世の、数え切れないほどの生物が存在する地球の本質ではない。何かに直面し疲れたとき、ふと吹いた優しい風に心を洗われたことはあるだろうか。たまたま立ち寄った公園で、綺麗な花が咲いていたことは？ 私たちには、気付くべきものがある。

私の趣味の一つとして、絵画鑑賞がある。特に、なんの変哲もない、日常を描いたものが大好きだ。庭の花の世話をする妻の姿、夕日の差し込むアトリエ、夏の夜の水面。有名な人物を除いて、ほとんどの画家はその生き様が知られていない。どこに生まれて、どんな人柄で、

何を思っていたのかもわからない。わからないけれど、彼らの残した絵からは、紆余曲折した人生の果てに出会えた、目の前の景色への愛おしさを感じる。私の主張の根源は、まさにそこにある。

私たちは人である以前に、地球という惑星に存在する生き物だ。お腹は空くし、眠いときは寝るし、命にも限りがある。長い歴史の中で先人が作り上げた、人間のための環境のもとで生きていると、どうしても自分を客観的に見られなくなる。そして、目の前のものに一喜一憂する。だが、それが全てだと思わないで欲しい。考えたがりを一回やめて、目に映る景色の色を感じたとき、あなたはそこに宇宙が作った芸術があることに気付く。



講 評

審査員長 江森 利公

(元東邦音楽大学特任准教授)

実は、審査は大変難しく難航いたしました。いろいろな意見が出されて、日常的なところから題材をとって、そこから考えを深め自分なりの主張としてまとめ上げていくご発表と、特別な体験をもとにして、命の問題やSDGsの問題、あるいは世界で考えていかなければいけない問題と結びつけて主張をまとめ上げていくご発表と、どちらを優位にもっていくのか。あるいは、内容に重点を置いて評価をするのか、内容と話し方の総合点で評価をするのか、「体験」が基になっていてその体験と自分の考えが結びついているものを評価するのか、そういった点をひとつひとつ細かく検討し、審査いたしました。

【個人】

1. 荏原第五中学校 塚崎 里音さん

塚崎さんは、日常生活の中から、自分と勉強とのかわりを具体的に述べていきます。勉強することのお

もしろさ・楽しさを知ること、勉強することの意識がはつきりととらえられるという考えには、体験に裏打ちされた実感があります。

2. 八潮学園 中村 葵さん

中村さんは、相手への配慮について、マスクをつけるなど身近な例を挙げて考えを深めていきます。そして、一方的に自分の思いをぶつけるのではなくて、まず、相手の身になっていねいに考え、相手の行動や気持ちを尊重することを大事にしたいと主張します。多くの人が肯いて聞かれたのではないのでしょうか。

3. 日野学園 坂本 美心華さん

坂本さんは、多様性について「障害」を窓口にして深く考えていきます。そして、違いを超えた先には「純粋な楽しさ」があることに気付きました。エピソードや体験と結びつけながらの発表でしたので、坂本さんのものの見方や考え方の変容がよくわかるご発表になりました。また、坂本さんが「感動している」ことが聴衆にも伝わってくる話ぶりがとてもよかったです。身振り手振り、声の調子、また大きな声だけでなく時には優しく語り掛けるようにお話されるところが魅力的でした。

4. 大崎中学校 小林 亮太さん

笑顔で話し始めました。日常生活の中から「楽しい」を見つけ味わうことで、明日を生きる力にするというご主張でした。苦しいことがあっても笑顔で過ごすという小林さんの前向きな生き方が伝わってきました。特に、「楽しい」は自分を動かす力になるという言葉は印象的でした。

5. 荏原平塚学園 佐藤 瑠心さん

誰もが一度は味わいそうな将来に対する不安感や迷いに向き合い、揺れる思いを素直に語ってくれました。そして、今を幸せで満たすようにしたら、それはきつと未来を明るく温かい幸せに導くことになる結論します。思春期らしい思索のあとが伝わってくるご主張でした。

6. 伊藤学園 増野 心香さん

SNSなどに代表される電子機器での高速コミュニケーションスタイルについて、ていねいに考えを進めていきます。そして、スタイルがどのように変化しても、相手の考えをよく聞き取ることや自分の考えをちゃんと伝えることの大切さに変わりはないことに気付いていきます。増野さんの二つの実践はその成果の

実感とともに納得できるものになっています。コミュニケーションのあり方について改めて見直す良い機会になりました。

7. 戸越台中学校 吉澤 風さん

興味関心や必要感のあることは熱心に学べるし、目標を持てば続けられるということをオンライン英会話での学び方を通して順序よく述べていきます。一つの気付きがまた別の気付きを生み、考えを深めていくところに吉澤さんの成長を実感しました。

8. 東海中学校 田島 華乃さん

数字を挙げて事例を紹介し話の内容に惹き込んでいきます。そして、歩きスマホが引き起こす重大事故を防ぐために、具体的な提案をします。実際に起きた重大事故の事例を挙げてのご提案には、田島さんの「命より大事なものは無い」という強い思いがこもっていました。情報を上手に活用していました。

9. 荏原第六中学校 三浦 慶太さん

京都は日本の歴史や文化を代表する魅力的な古都です。その京都が今、オーバーツーリズムの問題に混乱しています。修学旅行で実際に体験した混雑状況から

も、京都が魅力的であり続けて欲しいと訴える三浦さんの危機感と熱い思いとが伝わってくるご主張でした。思いのこもった話しぶりや改善策のご提示は心に残りました。

10. 浜川中学校 飯村 多聞さん

柔らかな調子で語りかけることから始めます。「努力をすれば必ず報われる」を実感したことがある飯村さんは、努力しようのない問題として児童労働に目を向けます。そして、自分たちにもできることとして、当事者意識をもつて今できることをしていこうと呼びかけます。誰もが平等に努力することで「できない」を「できる」にしたいという熱い思いが伝わるご主張でした。

11. 品川学園 米澤 諒さん

思考を変えるのではなく、視点を変えて考え直してみると、マイナス思考もプラス思考に変えることができる、そうすることで行動を変え、習慣を変え、運命さえも変えることができるというご主張でした。視点を变えて物を見ること、忘れがちです。はっとさせられるご指摘でした。

12. 富士見台中学校 吉田 璃子さん

車内でふと耳にした「普通じゃない」の言葉から「普通」ということについて自分なりの考えを深めていきます。他者と比較してあれこれ言うのではなく、自分と違う考えも尊重し、自分らしく生きていきたいというご主張でした。引用されたアインシュタインの名言は効果的で心に残りました。

13. 豊葉の杜学園 櫻井 悠真さん

櫻井さんは、ダジャレを日ごろから実践することを通じて、その効用について価値づけていきます。ダジャレが、口論でピリツとしていた空気を吹きとばし、思わず笑い声をあげてしまうお母さまの様子が目に見えるようでした。櫻井さんのユーモアのセンスとやさしい人柄が伝わってくるご発表でした。

14. 荏原第一中学校 伊藤 優里さん

りんご一個半の大きさで生まれたときからの生い立ちを思い返すことで、改めて生きる意味に気付かされた伊藤さん。積極的に人とかわり、生まれてきたことに感謝しながら生きていくと決意を述べます。伊藤さんの成長ぶりが伝わってくるご主張でした。

15. 鈴ヶ森中学校 稲永 椎さん

人は目の前のものに一喜一憂するものです。しかし、それが全てではありません。人工物の概念にとらわれず、そこから一步離れて客観的に全体を見つめ直してみると、また別の新しい何かが見えてくるものだというご主張でした。稲永さんの豊かな感受性が垣間見えました。

【全体】

皆様のご発表にそれぞれ特色があり、大変すばらしいものが沢山ありました。

全体を通して、審査の中で話題になったことが大きく二つありました。一つは題材の選択について、もう一つはスピーチ・話し方についてです。

題材については、中学生のだけれど普段の生活の中で一度や二度は見たこと・聞いたことがある、あるいは体験したことがある身近なことから題材を選び、自分なりの考えを深め、広げ、体験と結びつけながらその意義を明確にして語ってくれたものが多くありました。私たちが普段見過ごしていたことや発想の転換など、忘れていたものに目を向けさせてくれる素敵なご発表になっていました。未来に向けた改善の意欲を持たせてくれるご発表もありました。中でも、今年のご発表の中で

は「楽しむ」ということがキーワードになっていたと思います。何事も楽しむ、ということが自分を成長させるエネルギーになるし、生きる力になる、ということに改めて気づかされました。ユニークな体験に裏打ちされた思いや考え方が伝わってくる内容には、力強さや説得力がある、ということも改めて思い知らされました。内容によっては、改善のための具体策の提案がはっきり示されたものもありました。提案には当事者意識がはっきりとあって、「こうしたい」という熱意や思いがひしひしと伝わってきました。会場の皆様にも、共感を持って聞いていただいたと思います。

次に、スピーチ・話し方についてです。審査員の中には、壇上で大勢の聴衆を前にして原稿を読むだけでも中学生にとっては大変なことだ、という意見もありました。しかし発表者の皆様は実に堂々とされていて、聞き手を惹き込む話し方をされていました。聴衆に届く声の大きさであることはもちろん、熱い思いや考えの深まりが伝わるように工夫した話し方をされていたと思います。間の取り方も適切で、聞きやすいご発表でございました。また、強い思いや熱い思いを強調した声量・発声・語り掛けには感心させられました。情景描写も見事でした。聴衆をはっきりと意識して、聞き手の反応を確かめながら、話し方を工夫することは高度な技術でしょう。原稿を音

読するだけでなく、会場の皆様に語り掛けられるレベルに達しているご発表には驚きました。今回も素晴らしい発表に直接触れることができ、新しいエネルギーをいただきました。

最後になりますが、中学生の皆様がこのような深い主張をもち、会場の皆様に共感や感動を与えるご発表になったのは、ご家族の皆様や先生方とのあたたかい語り合い・ふれあいがあったことと推察いたします。今日ここに参加されました会場の皆様、関係者の皆様、すべての中学生の皆様に改めて感謝と敬意を表し、私からの講評とさせていただきます。ありがとうございます。



○前回までの三賞受賞者

●平成12年度（第一回）平成12年12月2日・荏原文化センター

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	支え合って、生きるために	荏原第二中学校	2 年	塚田 まなみ
優 秀 賞	私たちができること	富士見台中学校	3 年	浅井 裕子
//	学校・親・地域と生徒	鈴ヶ森中学校	3 年	岩崎 良輔

●平成13年度（第二回）平成13年12月1日・きゅりあん

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	地域のために、私のために	荏原第六中学校	3 年	峰 知子
優 秀 賞	地域のなかで生きる	日野中学校	2 年	小川 航
//	地域ボランティアを経験して学んだこと	東海中学校	2 年	播摩 瞳
審査員特別賞	地域と私のかかわり	富士見台中学校	3 年	大竹 菜津美

●平成14年度（第三回）平成14年12月7日・荏原文化センター

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	地域の人々とのつながり	浜川中学校	3 年	柳澤 志保
優 秀 賞	レッツ！ボランティア	荏原第一中学校	3 年	高橋 南美
//	ボランティアを通じて	富士見台中学校	3 年	和田 瑠美子
審査員特別賞	僕の「故郷」－八潮	八潮南中学校	3 年	坪田 光司

●平成15年度（第四回）平成15年12月6日・きゅりあん

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	さあ、みんなでボランティアを	荏原第六中学校	3 年	梁川 美枝
優 秀 賞	生徒会として地域にできること	平塚中学校	3 年	森口 諒
//	僕らにできること	八潮中学校	3 年	高野 真之
審査員特別賞	ボランティアと私	富士見台中学校	3 年	大竹 美里

●平成16年度（第五回）平成16年12月4日・荏原文化センター

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	あいさつをしよう	荏原第六中学校	3 年	堀尾 りえ
優 秀 賞	ボランティアに挑戦	荏原第五中学校	2 年	中野 美憂
//	地域とのつながり	鈴ヶ森中学校	3 年	渡辺 奈津子
//	「五反田の夏」	日野中学校	9(3)年	内山 洋輔
審査員特別賞	地域の皆さんの励ましで	東海中学校	3 年	杉本 育美
//	二期の生徒会活動を通じて	富士見台中学校	3 年	太田 英子

●平成17年度（第六回）平成17年12月3日・きゅりあん

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	いじめ	荏原第四中学校	3 年	横部 美穂
優 秀 賞	笑顔で地域づくり	八潮中学校	3 年	小林 理沙
//	現代社会に必要なもの－あなたはもっていますか－	荏原第二中学校	2 年	曲師 夕貴
//	ジュニアリーダー教室で学んだこと	伊藤中学校	9(3)年	伊藤 泉
審査員特別賞	日本に来て感じたこと学んだこと	日野中学校	9(3)年	ジェスレイRコンフェリド
//	ボランティア活動で成長しよう	荏原第五中学校	3 年	広瀬 可奈

●平成18年度（第七回）平成18年12月2日・荏原文化センター

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	教育を受ける権利をもつ私たち	戸越台中学校	9 年	豊田 紘子
優 秀 賞	Cooperation	城南中学校	9 年	斎藤 琴音
//	今、私たちに出来る事	大崎中学校	8 年	木村 ゆう
//	Let's Think About The Earth	平塚中学校	9 年	鷹見 彩
審査員特別賞	命	伊藤中学校	9 年	尾形 大生
//	班長を経験して	荏原第六中学校	8 年	小林 旺世

●平成19年度（第八回）平成19年12月1日・きゅりあん

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	私の母校	平塚中学校	9 年	木山 友貴
優 秀 賞	嘘	日野学園	9 年	中島 深代佳
//	思いやり	荏原第六中学校	8 年	溝口 斐狩
//	今の私たちにできること	戸越台中学校	9 年	川田 知佳
審査員特別賞	一生一組から	八潮南中学校	9 年	仲妻 みゆき
//	地球温暖化と私	八潮中学校	8 年	秋山 豊人

●平成20年度（第九回）平成20年12月6日・荏原文化センター

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	「命の輝き」	東海中学校	8 年	篠原 優海
優 秀 賞	人生最大の体験	荏原第四中学校	9 年	池田 隼人
//	自分対自分	戸越台中学校	9 年	青菅 美咲
審査員特別賞	私の学校	荏原平塚中学校	8 年	肥沼 佑依

●平成21年度（第十回）平成21年12月5日・きゅりあん

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	ユニセフリーダー講座に行って	富士見台中学校	9 年	林 晃玟
優 秀 賞	じいちゃん笑顔	城南中学校	9 年	白石 陽香
//	将来の夢	浜川中学校	8 年	相樂 滯
審査員特別賞	道しるべ	荏原第三中学校	9 年	大瀧 夢乃

●平成22年度（第11回）平成22年12月4日・荏原文化センター

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	つながりの大切さ	荏原第一中学校	9 年	松尾 江里香
優 秀 賞	いのちのバトンをつなぐ	伊藤学園	9 年	山森 明子
//	いじめをなくす一歩	鈴ヶ森中学校	9 年	木村 賢幸
審査員特別賞	越えたい背中	城南中学校	9 年	畠山 翔

●平成23年度（第12回）平成23年12月3日・きゅりあん

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	震災の募金を通して気付いた本当のボランティア	荏原第六中学校	9 年	川崎 誠士
優 秀 賞	差別の気持ち、ありませんか	富士見台中学校	7 年	川村 さくら
審査員特別賞	あきらめない心	浜川中学校	9 年	河出 奈都美

●平成24年度（第13回）平成24年12月8日・荏原文化センター

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	言葉の暴力	東海中学校	8 年	岡本 華穂
優 秀 賞	出会いは人を変える	富士見台中学校	9 年	菅谷 日南子
//	今を生きる私たち	鈴ヶ森中学校	9 年	鈴木 康平
審査員特別賞	日本国憲法の権利と責任について	荏原第五中学校	9 年	博田 そら

●平成25年度（第14回）平成25年12月14日・スクエア荏原

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	あの日から	品川学園	8 年	渡来 由麻
優 秀 賞	自分らしい自分になるために	鈴ヶ森中学校	9 年	小栗 沙樹
//	平和を考えた夏	東海中学校	8 年	中岡 悠空
審査員特別賞	言葉で伝える	荏原第六中学校	9 年	米澤 友梨子

●平成26年度（第15回）平成26年12月13日・きゅりあん

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	故郷	東海中学校	8 年	金崎 優樹
優 秀 賞	世界のマナーとわたし	豊葉の杜学園	9 年	松村 美結
//	教育のありがたみ	富士見台中学校	9 年	細木 優佳
審査員特別賞	言葉	日野学園	9 年	大輪 ひよか

●平成27年度（第16回）平成27年12月12日・スクエア荏原

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	今私たちができること	鈴ヶ森中学校	9 年	藏 慧子
優 秀 賞	声	品川学園	9 年	岩田 ゆう奈
//	中学生から見た社会	伊藤学園	9 年	竹内 翔吾
審査員特別賞	自分に自信を持つこと	日野学園	9 年	島 優香里

●平成28年度（第17回）平成28年12月10日・きゅりあん

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	共に生きる社会を目指して	大崎中学校	8 年	種部 夏実
優 秀 賞	携帯電話の使用について	伊藤学園	9 年	保野 百合子
//	未来を弾く	品川学園	9 年	上村 正利
審査員特別賞	孤独死から変える未来	鈴ヶ森中学校	9 年	野村 光里

●平成29年度（第18回）平成29年12月9日・スクエア荏原

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	見えない心の傷	荏原第一中学校	9 年	高地 七星
優 秀 賞	話せなくても	品川学園	9 年	矢田堀 成実
//	思い込みの重さ	大崎中学校	8 年	加茂 詩音
審査員特別賞	自分も相手も傷つけないために	鈴ヶ森中学校	9 年	古屋 心織

●平成30年度（第19回）平成30年12月8日・スクエア荏原

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	ひとりじゃない	荏原第六中学校	9 年	緒方 紫麻
優 秀 賞	『一九八四年』から考える私達の自由	品川学園	9 年	石川 睦月
//	男女平等	豊葉の杜学園	9 年	飯寄 瑚子
審査員特別賞	気持ちを人に伝えるには	伊藤学園	9 年	富永 夏々子

●令和元年度（第20回）令和元年12月14日・立正大学 品川キャンパス 石橋湛山記念講堂

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	少しの勇気で助け合い	荏原第五中学校	8 年	川端 あかり
優 秀 賞	乗り越えてはいないけど	戸越台中学校	8 年	岸村 帆菜
//	「個性」とは	日野学園	9 年	石川 真由香
審査員特別賞	頂上を目指して	荏原第六中学校	9 年	栃谷 好香

●令和3年度（第21回）令和3年12月11日・スクエア荏原

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	争うこと	荏原第六中学校	9 年	高瀬 結空
優 秀 賞	自分から	荏原平塚学園	9 年	鈴木 絢音
//	生きてるだけで社会貢献	八潮学園	8 年	丹 つぐみ
審査員特別賞	緊張しても大丈夫	富士見台中学校	9 年	袖山 鈴菜

●令和4年度（第22回）令和4年12月10日・スクエア荏原

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	助ける	荏原第六中学校	9 年	今井 莉央
優 秀 賞	理解	荏原第一中学校	9 年	松浦 夢彩
審査員特別賞	一言多く	八潮学園	8 年	白石 結菜

●令和5年度（第23回）令和5年12月9日・スクエア荏原

賞	発表題名	学 校	学 年	氏 名
最 優 秀 賞	描き続ける	鈴ヶ森中学校	9 年	白倉 帆乃佳
優 秀 賞	悩みの先に見えるもの	品川学園	9 年	國分 楓
//	真剣だからこそ、守れる命	豊葉の杜学園	9 年	関 琉璃
審査員特別賞	私の挑戦	戸越台中学校	8 年	宮澤 星怜

○第24回中学生の主張大会司会者

東海中学校	8 年	石川 華恋
東海中学校	8 年	太田 夢乃
荏原第一中学校	8 年	長久保 幸盟
荏原第一中学校	8 年	小野澤 玲実

○第24回中学生の主張大会審査員

(審査員長) 元東邦音楽大学特任准教授	江森 利公
品川区立中学校PTA連合会代表	加藤 雅紀
品川区教育委員会事務局教育総合支援センター指導主事	西岡 裕香
品川区青少年対策地区委員会連合会代表	根岸 輝行
品川区青少年対策地区委員会連合会代表	近野 チカ子

品川区民憲章

制定 昭和五十七年十月一日
(一九八二年)

品川区は、東に東京湾を擁し、西にはるか富士を望み、国際都市東京の表玄関に位して、江戸の昔から交易の拠点となり、我が国文化と産業の発祥地として、あまねく都民の心のふるさとであります。

わたくしたちは、この輝かしい歴史と伝統を誇りとし、文化の香り豊かな近代都市への発展を目指して、ここに区民憲章を制定いたします。

- 一、わたくしたちは、自由と平等を基本理念として、
住民自治を確立し、進んで区政に参加します。
- 一、わたくしたちは、心の触れ合いを大切にして、
互いに人権を尊重し、人間性豊かな環境をつくります。
- 一、わたくしたちは、古きよき歴史と伝統を守り、
さらに生活文化を発展させ、これを後世に伝えます。
- 一、わたくしたちは、自然を大切にして、生活との調和をはかり、
健康で豊かな区民生活を目指します。
- 一、わたくしたちは、自立と連帯の精神に支えられた、
思いやりと生きがいのある地域社会をつくります。

憲章制定の経過と形態

「品川区民憲章」は、昭和五十六年十二月三日発足した品川区民憲章制定委員会（会長 沖邑品吉氏 委員数二十名）が区長の諮問を受け、延べ十二回の会議を持ち、昭和五十七年五月十七日、「品川区民憲章案」として答申されました。区では、答申の内容を慎重検討の結果、内容的にも、作成過程なども適切であると判断し、答申通り区の憲章とすることに決定しました。

また区では、名実ともに区民の総意による憲章とするため、昭和五十七年第二回東京都品川区議会定例会に付議し、去る七月六日、「品川区民憲章」として議決されました。

憲章は、前文と五項目の本文からなり、前文では、歴史と伝統に輝く、品川区の位置と誇りを示し、文化の香り豊かな近代都市への発展を目指す決意をうたっており、本文の五項目は、制定の目的を達成するための区民の心構えが具体的に述べられています。



司会者（東海中学校）



司会者（荏原第一中学校）



発表



発表



発表



発表



発表



審査員長講評



令和7年3月

品川区青少年対策地区委員会連合会
(事務局) 〒140-8715 品川区広町2-1-36

品川区地域振興部地域活動課
地域支援係 TEL 03-5742-6690